

市町村と県による協働電子図書館

デジとじょ信州 による

長野県民は
だれでも
いつでも
どこからでも!

学びの基盤と公正な社会づくり



市町村と県による協働電子図書館運営委員会／長野県

(2023年11月6日)

「デジとしょ信州」協働のしくみ(令和4年~の5か年事業)

令和
5年版
2023

市町村と県による
協働電子図書館

デジとしょ信州

長野県民は
だれでも
いつでも
どこからでも

パソコン・スマホ・タブレットで読む

電子書籍(コンテンツ)……77市町村で分担購入

アクセシブル
ライブラリー

視覚障害者向け電子図書館

電子図書館(プラットフォーム
本棚のような役目)……県立図書館で維持



県内全ての自治体が、協働で
導入する事例は「**全国初**」!

長野県で協働電子図書館の実現は、画期的かつ必然！



- 山間部が多く広い県域をもつ長野県
 - 市町村の数:77 (全国第2位)
19市、23町、35村 (村数全国第1位)
 - 議論好きで、知識欲が旺盛。独立心が強い県民性
 - 各地域が独自の文化を育んできた
- 長野県の全自治体が一つに!
 - 長野県として、画期的な出来事
 - 長野県だからこそ、必然

「デジとしょ信州」とは？

- 公共図書館による電子書籍の貸出サービス



- 本棚は、どなたでもご覧いただけます
(スマホ、タブレット、パソコンから)

<https://shinshu-kyodo-library.overdrive.com/>



図書館で発行する
利用IDでサインイン



読みたい電子書籍を
一度に2冊まで
1週間 借りられる



期限が来たら
自動返却
返し忘れの心配なし

「デジとしよ信州」とは？

● リアルな図書館で本を借りるしくみとの類似点

- 利用登録で、本が借りられる、予約ができる
- 基本的には、一冊の本を同時に一人が借りられる仕組み
- 図書館がコストを賄い、利用する本人は無償で借りられる

● 電子書籍ならではのメリット

- **図書館に行かなくても、365日、24時間いつでも、本が借りられる**
⇒ 遠くても、閉まっても、忙しくても、災害や免許返上などで出歩きづらくても、居ながらにして利用可能
- **文字の拡大ができたり、オーディオブックを耳で聴いたりできる**
⇒ 本の読みやすさがアップし、**読書バリアフリー**につながる

質の高い
教育を
みんなに

「**信州 SDGs**」の取り組みの1つに位置付けられています

協働で「電子書籍サービス」に取り組んだ背景

解決したい課題

- (1) 「情報の形」の変化
- (2) 地域的な条件等による情報格差
- (3) コロナ禍、災害等の影響

学校教育や
社会の情報化
推進に寄与

学びの
保障

インクルーシブ
教育

感染症や
災害に強い
図書館

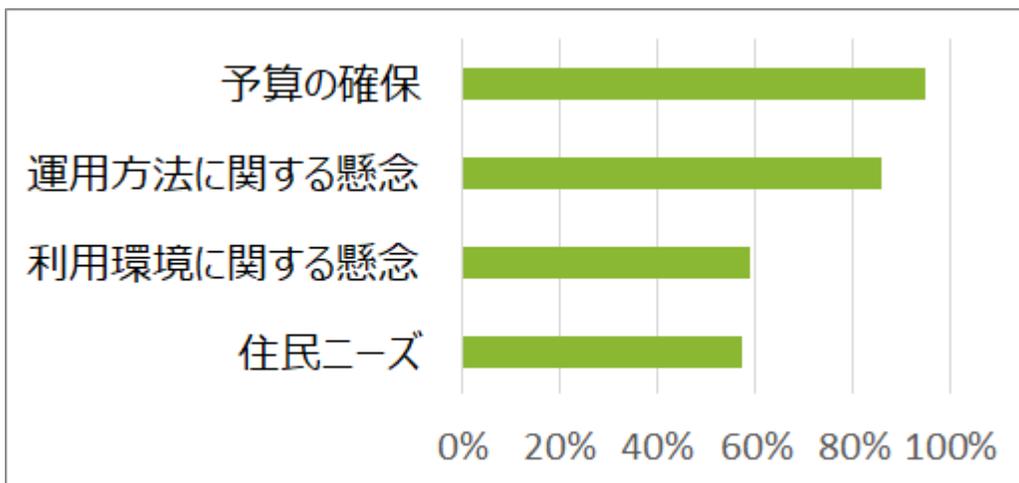
非
接触・
移動
削減

読書や学びの
バリアフリー

目指したい姿

実現策として「電子書籍」が有効！しかし、現実には…

アンケートで明らかになった市町村（図書館）の悩み



【課題】

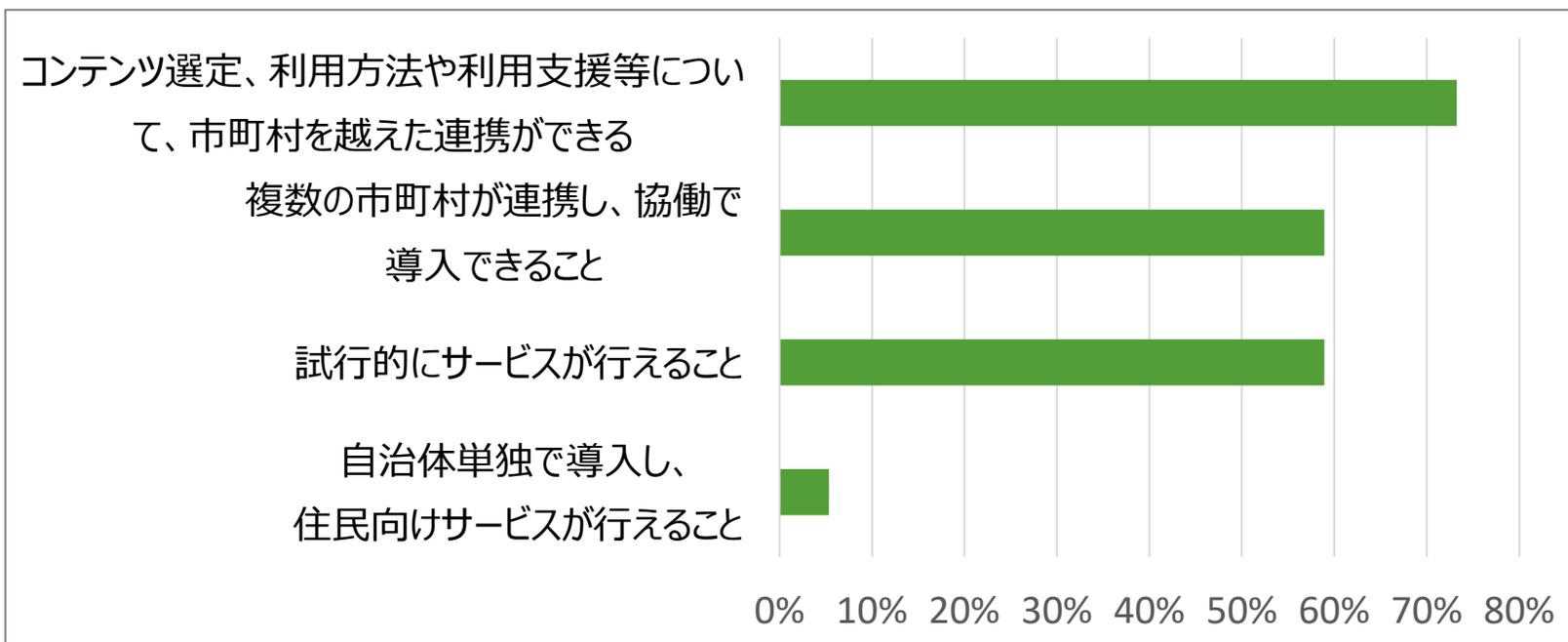
- 予算の確保: 9割以上
- 運用の懸念: 8割以上

【希望】

- 市町村を越えた連携: 7割以上

【コメント】

- 議会で質問があった
- 単独導入は壁が高い
- 図書館が台風による水害にあい、必要性を痛感



「電子書籍貸出サービス」に関するアンケート（R3.1）
対象：長野県内公立図書館
（回答率100%）

予算確保と運用のハードルが高いことが明らかに

市町村と県の協働で「だれ一人取り残さない長野県へ」

市町村と県とが協働して電子図書館のサービスを構築

情報へのアクセスを保障

「災害」「感染状況」等になるべく
影響されず、図書館
サービスを提供し続ける環境をつくる

×

リーチを拡げる

「地理的条件」「生活スタイル」
「特別な配慮」などで
利用しづらかった住民にサービスを届ける

これまでできなかったことを

これまで届かなかった人へ

情報基盤・ノウハウの共有 + 全体の事務コストの軽減

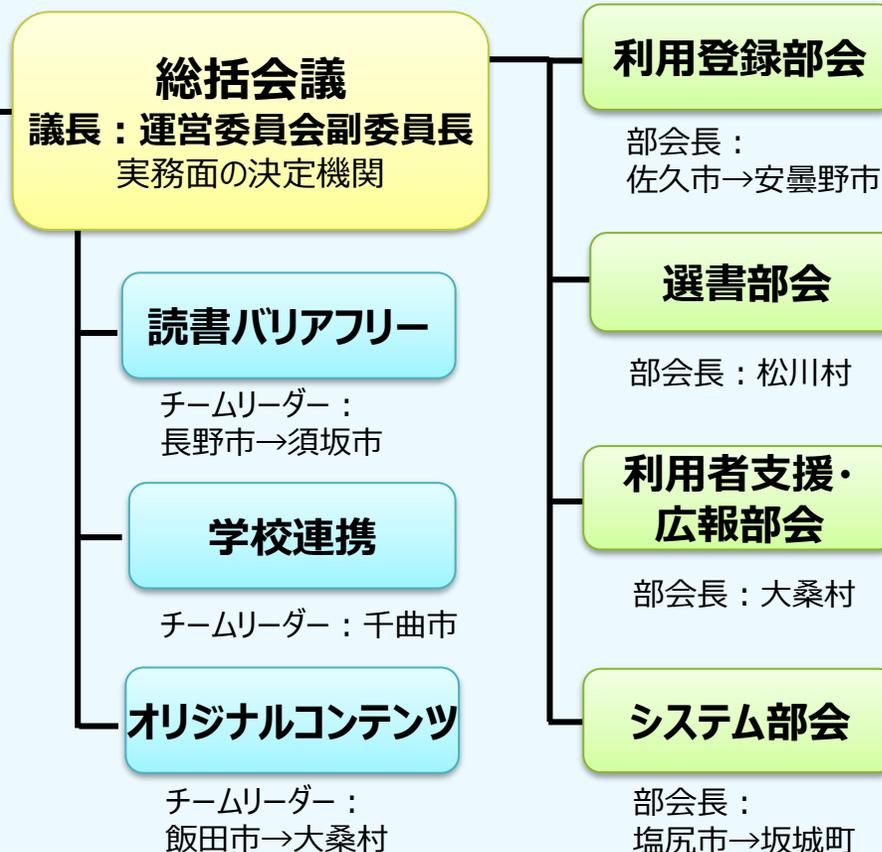
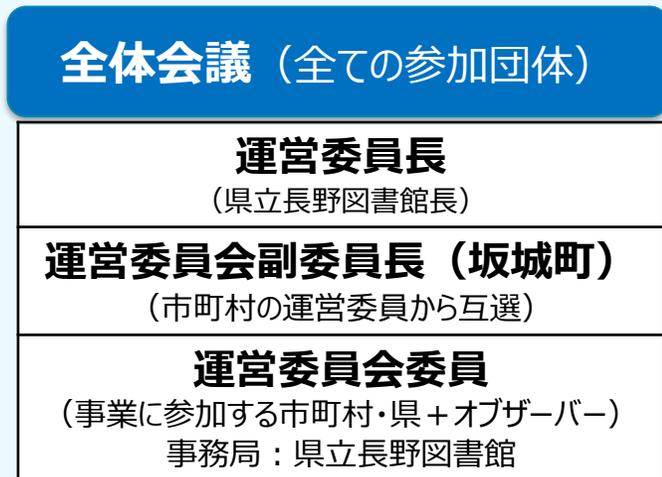
前例のない事業に デジタルツールを活用して 人的ネットワークで挑む

R3年度

長野県先端技術活用推進協議会にWGを設置して検討 (事務局: 県DX推進課)

R4年度

市町村と県による協働電子図書館運営委員会 (事務局: 県立長野図書館)



市町村立図書館・公民館
図書室、教育委員会、
DX担当など、多様な
ステークホルダーが連携

市長会、町村会、教育長会、
自治振興組合、
市町村振興協会へもご説明
(宝くじ助成金)

広い長野県内全域から
オンラインで集結!

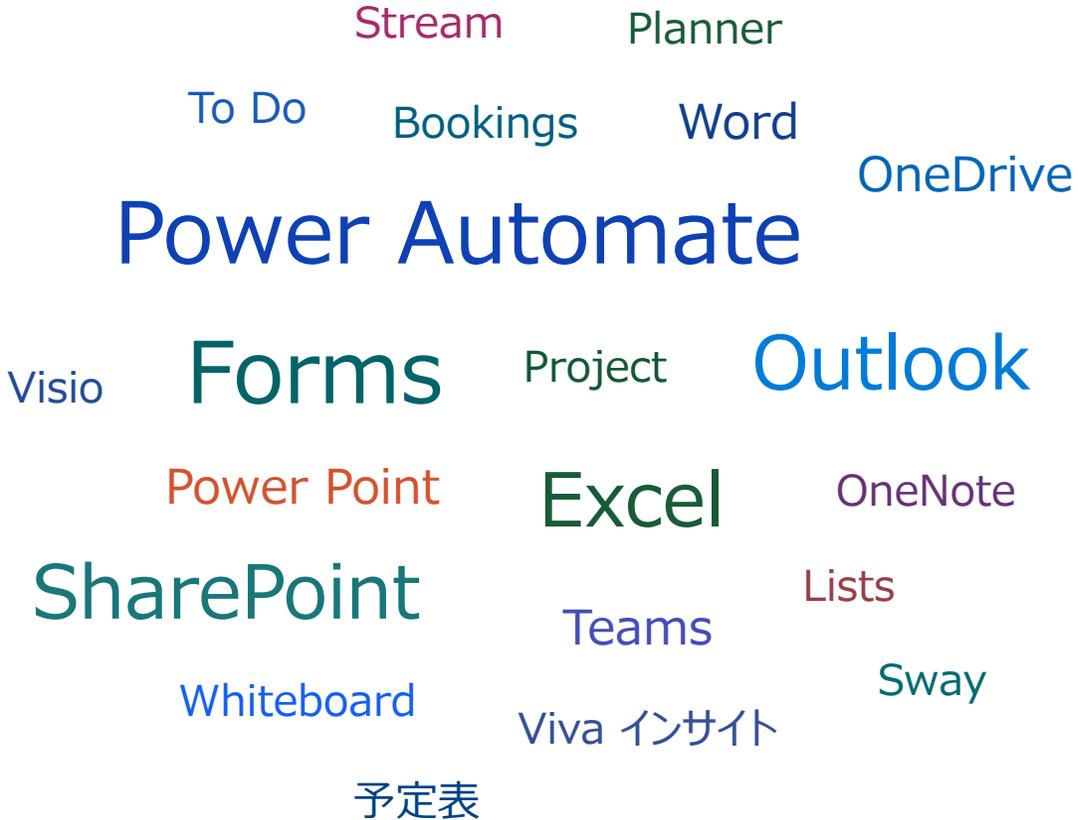
R5年度

新体制で引き続き取組中

自治体を越えたプロジェクトの事務処理・情報共有をDXで効率化!

- 市町村からの運営に関する気づきや質問を、総括会議メンバーへ自動で即時共有
- 電子申請で受け付けた利用登録を、図書館業務システムに自動取込 など

効率化は、県が整備する
情報システム基盤で
RPA（自動化処理）などの
ツールを活用して実現



情報システム基盤の一部である次世代コミュニケーションツール「Microsoft 365」を活用

令和4年8月5日 県内全自治体をつないだオープニングセレモニー



たくさんの首長や教育長、関係者が参加！ これはゴールではなく、スタートです

システム開発元（米国）のCEO、国内サービス事業者と意見交換



日本語環境の改善や
コンテンツの拡充に向けた
対話と協働を続ける

大きな視点で、公共図書館向け電子書籍サービスの環境改善を目指す

アウトプットを見える化し、その先のアウトカムへ

● 利用者IDのしくみを工夫：

✓ 市区町村コード、利用者生年、図書館利用カード番号から生成

● 市町村ごと、年代・世代ごとの利用実態を見える化

⇒ ニーズ把握、プロモーション、選書方針に活かす

● リアル図書館との相乗効果を確認 ⇒ 新たな顧客層の開拓に活かす

● 投資効率の向上への期待（アウトプット）

✓ 住民の図書館利用率、貸出回転率の向上

● 顧客満足度向上への期待（アウトカム）

✓ 地域の活性化、課題解決力の向上

✓ 地域への愛着、幸福感の向上

エビデンスに基づき
公共サービスとしての
図書館の存在意義を示す



持続可能なサービス
においた財源確保

<留意事項>

貸出情報はビッグデータとして統計処理しサービス向上に役立てる。個人のIDと貸出情報は紐づけしない

こんなふうに使われています! ①コンテンツ数とID登録数 (2023年9月末現在)

● コンテンツ数:

22,268点

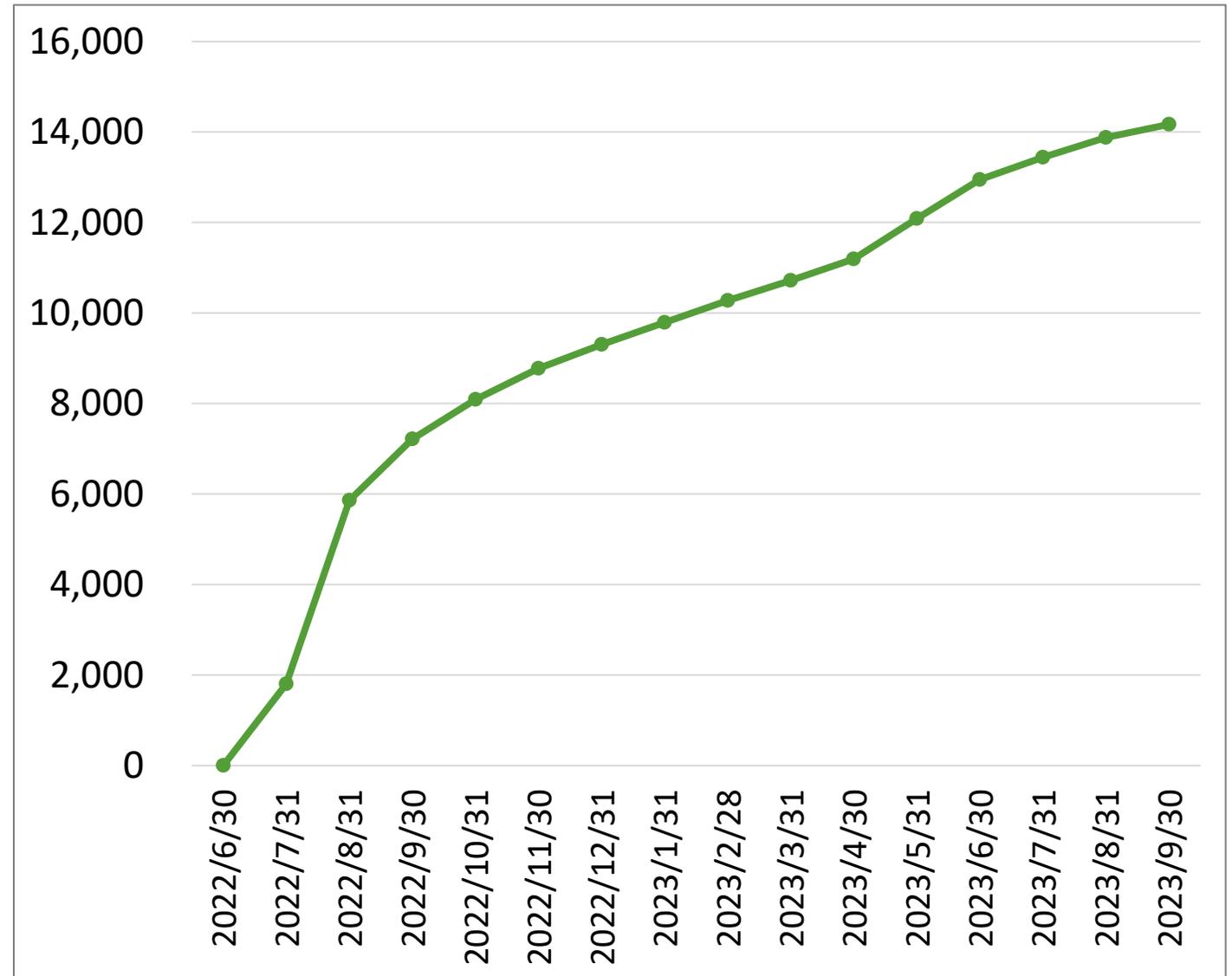
- スタート時: 18,450点
継続的に増やしています

● ID登録数(累計):

14,165人

- 長野県の人口: 2,006,393人
(2023年9月1日現在)
- 県民の0.76% (まだまだこれから!)
- IDを一括登録する学校も

知ってもらう
親しんでもらう
さらなる工夫を!



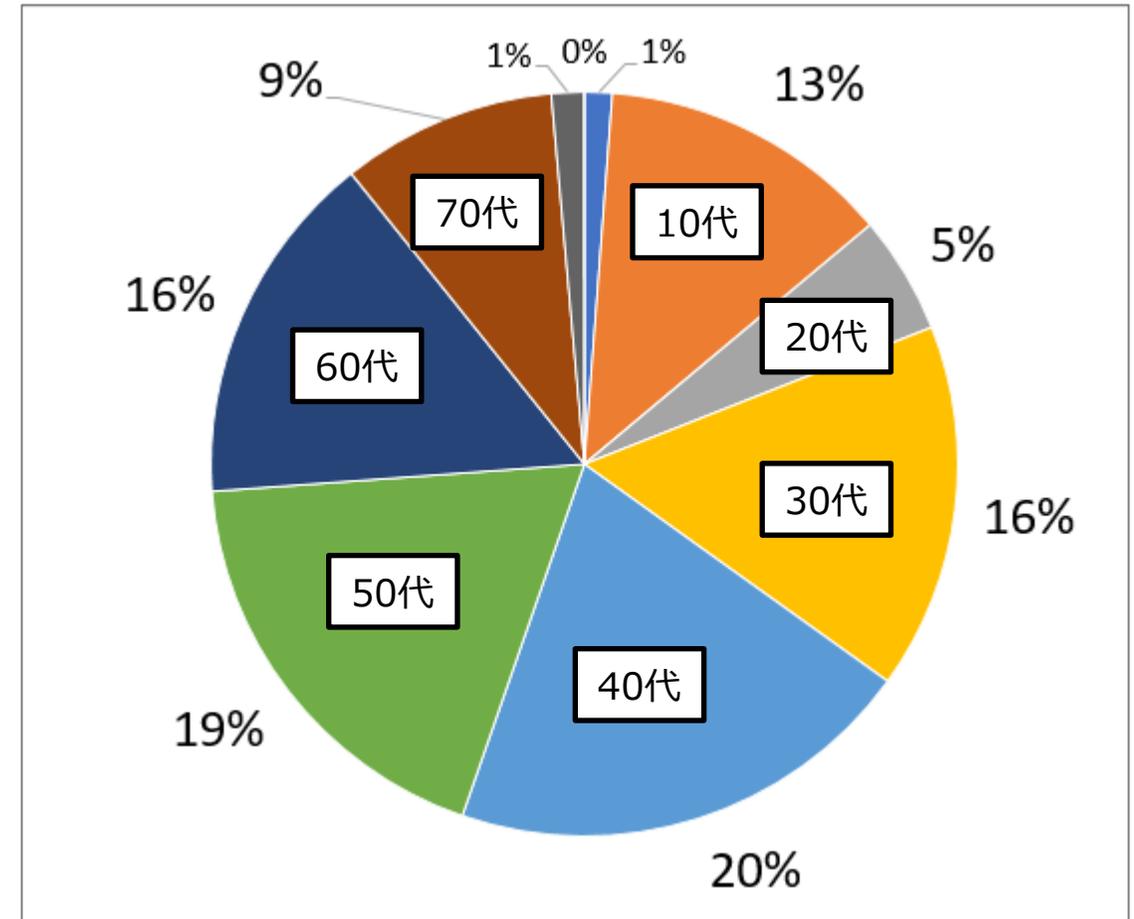
こんなふうに使われています! ②貸出数・年代 (2023年9月末現在)

● 貸出数:

88,086冊

● 貸出者年代:

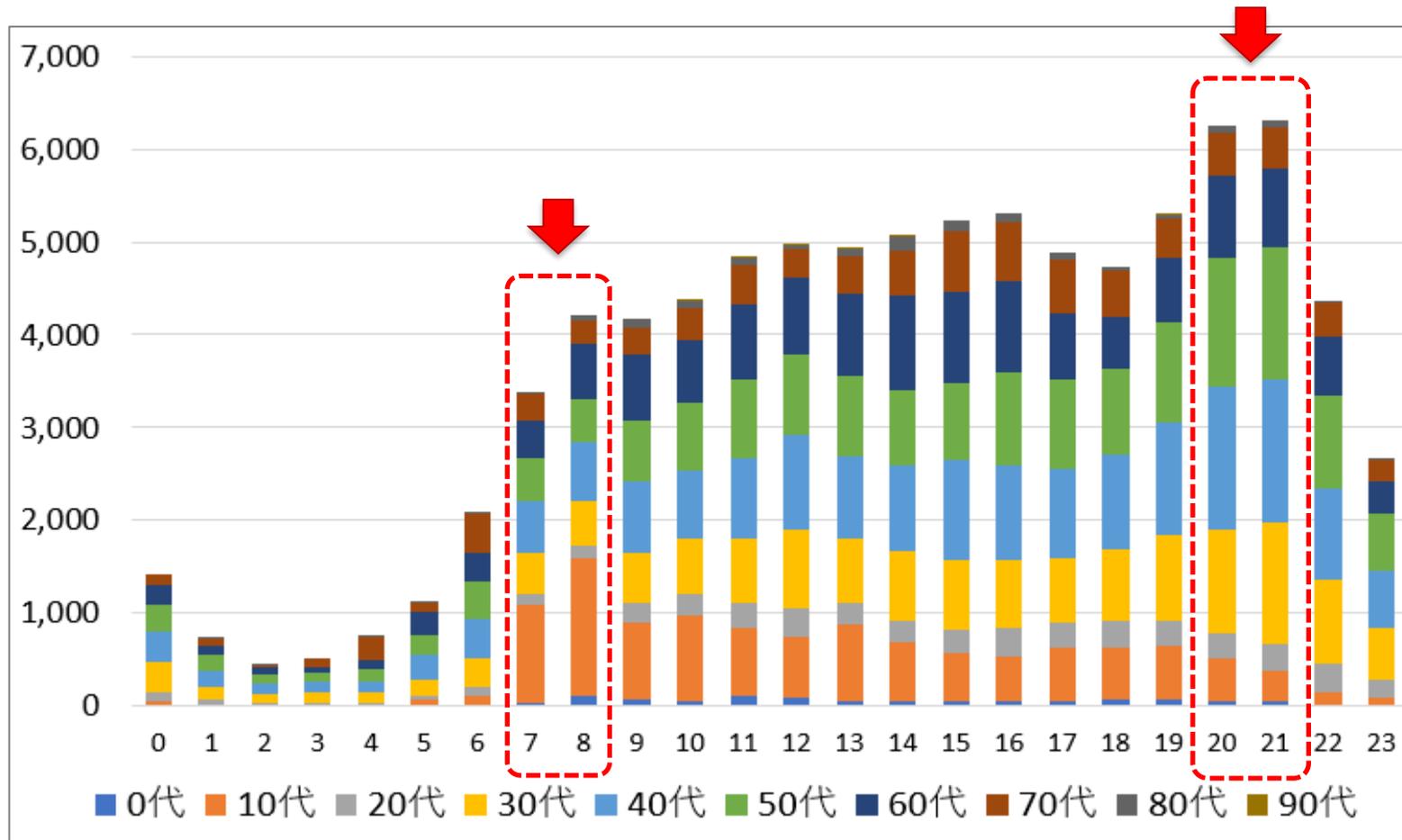
- ✓ 40代を中心に、30代~60代が多い
- ✓ リアルな図書館を利用しづらい、働く世代にリーチ
- ✓ 10代も増加。さまざまな年齢層に広がっている



県民の声

- 視力が低いので、拡大機能が重宝する
- 心配した文字の大きさや行間など、高齢者にも優しい
- オーディオブックもいい。長く愛用したい

こんなふうに使われています! ③使われる時間帯と年代 (2023年9月末現在)



● 使われる時間帯:

- ✓ 最多: 20時~21時
図書館が開いていない時間帯の利用
- ✓ 注目: 7時~8時
10代の利用が多い

電子書籍ならではの
使い方が見えてきた

- 隙間時間が読書タイムとなり、読書量が一気に増加
- 普段読まないジャンルにも挑戦できる
- 家にいるまま、スマホで本が借りられるの、快適すぎる

県民の声

読書バリアフリーのさらなる充実に向けた前進

● 視覚障がい者向け電子図書館

「アクセシブルライブラリー」の導入

スマホ、タブレット、PCで
コンテンツを楽しめる

- 電子書籍を音声自動読み上げで提供
※盲学校や長野県視覚障害者福祉協会等とも連携

QRコードを読み取って
かんたんログイン



● 今後も、さまざまなバリア解消に向けて取り組んでいく

- 外出がしにくかったり、身体的・地域的・経済的などの要因で読書が困難な人へ、読書環境を届ける

● 小さい村でも、同じサービスを提供できるのは、
「デジとしよ信州」をみんなで作っているおかげ!

図書館
現場の声

それぞれの自治体、それぞれのカタチ ①広報との連携



千曲市役所公式
YouTubeチャンネル



デジとしよ信州で
あなたのスマホが図書館に



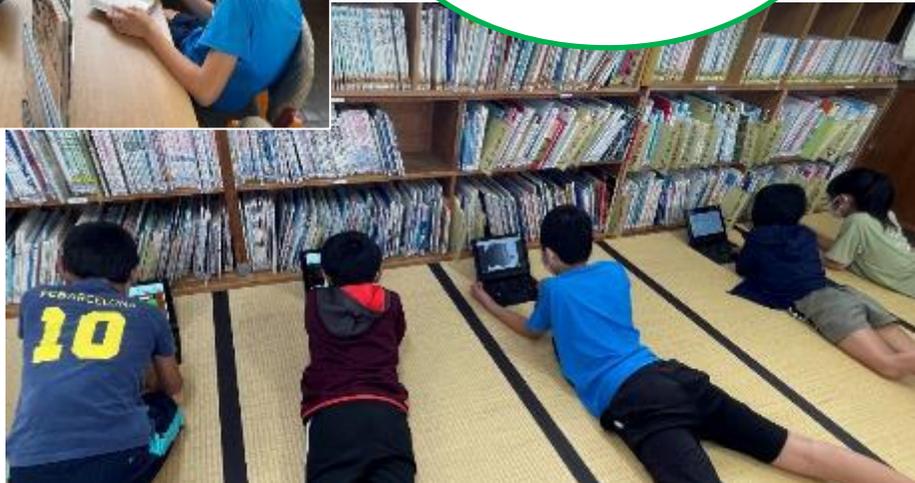
それぞれの自治体、それぞれのカタチ ②学校との連携

● 高森町:

- 高森北小: 1年生全員がリアル図書館に登録
- **3年生で全員がデジとしょ信州に登録**
- 地域資料の電子化にも力を入れる



紙とデジタルの
自発的な
使い分け



● 佐久市:

- **英語の本の読み聞かせて、ネイティブスピーカーによる読み上げ機能を活用して練習 (小学校5年)**

デジタルの
特長を
活かす



● 安曇野市:

- リアル図書館を社会科見学後、利用登録を行い、デジとしょ信州IDも発行 (小学校)

「デジとしょ信州」が大切にしていきたいこと

デジとしょ信州は

紙からデジタルへの置き換え、集約ではなく
一人ひとりの住民、それぞれの市町村にとっての

選択の幅を広げる

リアルな図書館+デジとしょ信州で

すべての住民の

「読書・学びの基盤」の充実と

「公正な社会」づくりに

寄与していく

もっと、みんなの

デジとしょ信州へ!